

中央アジア関連研究文献リスト 2012

本リストは、2012年（1月～12月）に刊行された、原則としてイスラーム化以降の中国新疆および旧ソ連領のムスリム地域およびその周辺地域に関する学術文献をリストアップしたものである（理科系のものを除く）。原則的に、国内で刊行された、国内で活動する研究者による著作を中心とし、エッセイや事典項目等は除外した。ただし、本学会会員の著作については、海外刊行のものも一部含まれる。なお、各文献の副題はコロンつなぎで統一した。

書籍

井土慎二『タジク語文法便覧』東北大学出版会（2,000円）

宇山智彦『比較帝国論の世界：新学術領域研究第4班中間成果』北海道大学スラブ研究センター（非売品）

「帝国の弱さ」（宇山智彦）

などを所収

Uyama Tomohiko, ed., *Empire and after: Essays in Comparative Imperial and Decolonization studies*, Sapporo: Slavic Research Center, Hokkaido University（非売品）

“Mutual relations and perceptions of Russians and Central Asians”(Uyama Tomohiko)

などを所収

大倉忠人（編）『キルギス語－日本語辞書』アカデミア出版（非売品）

お茶の水女子大学グローバル協力センター編『アフガニスタンの女子教育支援：ノンフォーマル教育の視点から』お茶の水女子大学グローバル協力センター

「識字教育と女性の自立」（笹井宏益）

「シャンティ国際ボランティア会の子どもの学校外教育」（三宅隆史）

「アフガニスタンの識字教育の現状と課題」（小荒井理恵）

「JICAのノンフォーマル教育支援」（佐久間潤）

帯谷知可、北川誠一、相馬秀廣編『朝倉世界地理講座5 中央アジア』朝倉書店（17,000円＋税）

- 「テュルク文化とペルシア文化」(菅原睦)
「イスラーム化の進展」(小松久男)
「南コーカサスのキリスト教」(北川誠一)
「中央アジアにおける聖者崇拜の実態」(川本正知)
「「遊牧民」の現在」(吉田世津子)
「バザールと人々」(真田安)
「帝政ロシア支配の実像とロシア・ムスリム知識人」(宇山智彦)
「「民族」の成立と国境画定」(帯谷知可、北川誠一)
「南コーカサスにおける政治と文学：アルメニアを中心に」(北川誠一)
「中央アジア農業の市場化とその課題」(清水学)
「イスラーム復興」(小松久男)
「タジキスタン内戦と和平」(宇山智彦)
「中央アジアにおけるウイグル人の越境とその背景」(新免康)
「中央アジアに強制移住された諸民族：歴史と現在」(半谷史郎、岡奈津子)
「英雄叙事詩の世界」(坂井弘紀)
「ウイグル人の音楽に現れる歴史性・地域性」(鷲尾惟子)
「ウズベキスタンの現代演劇」(浅村卓生)
「現代国際関係にとってのシルクロード」(湯浅剛)
などを所収(本学会会員執筆部分)

Kawahara Yayoi, *Private Archives on a Makhdūmzāda Family in Marghilan*, Tokyo: Department of Islamic Area Studies Center for Evolving Humanities, Graduate School of Humanities and sociology, The University of Tokyo (非売品)

窪田順平監修・奈良間千之編『中央ユーラシア環境史 1: 気候変動と人間』臨川書店 (2,800 円)

- 「中央ユーラシアの自然環境と人間：変動と適応の一万年史」(奈良間千之)
「カザフスタンにおけるジウト(家畜大量死)：文献史料と気象データ(19世紀中葉—1920年代)」(宇山智彦)
などを所収。

窪田順平監修・承志編『中央ユーラシア環境史 2：国境の出現』臨川書店 (2,800 円)

- 「イリ地域をめぐる帝国の興亡と国境の誕生：ユーラシアの中心から周縁へ」(杉山清彦)
「中央ユーラシアにおける「国境」の誕生と遊牧の実態」(承志)
「歴史の中のカザフの遊牧と移動」(野田仁)
「清朝時代におけるイリ溪谷の農業開発」(華立)
「イリ九城点描：都市・住民・環境」(華立)

「遊牧国家の資源利用：ジューンガルにおける農業と交易」（小沼孝博）

「シベ集団の移住とその後の生活」（承志）

などを所収

窪田順平監修・渡邊三津子編『中央ユーラシア環境史3：激動の近現代』臨川書店（2,800円）

「中央ユーラシアの社会主義的近代化：カザフスタンとモンゴルの対比から」（小長谷有紀、
渡邊三津子）

「社会主義体制下での開発政策とその理念：近代化の「視覚」から」（地田徹朗）

「社会主義的近代化の担い手たちがみた地域変容：イリ河中流域を対象として」（渡邊三津子）

「中央アジアにおける灌漑農業」（清水克之）

「イリ河デルタの地域生態史：異化空間の生成と崩壊の記憶」

「国境地域における社会主義崩壊とコミュニティ変容：中国・カザフスタン国境域を対象に」（中村知子）

「乾燥・半乾燥地域の水資源開発と環境ガバナンス」（大西健夫、地田徹朗）

などを所収

窪田順平監修・応地利明著『中央ユーラシア環境史4：生態・生業・民族の交響』臨川書店（2,800円）

先崎将弘『美味しい中央アジア：食と歴史の旅』東洋書店（800円）

塩川伸明、小松久男、沼野充義、宇山智彦編『ユーラシア世界1〈東〉と〈西〉』東京大学出版会（4,500円＋税）。

「総論〈東〉と〈西〉：特にロシアと東方との関係について」（宇山智彦）

「カザフ知識人にとっての〈東〉と〈西〉：階層的国際秩序の認識と文化的精神性の希求」（宇山智彦）

などを所収

塩川伸明、小松久男、沼野充義編『ユーラシア世界3：記憶とユートピア』東京大学出版会（4,500円＋税）

汎イスラーム主義再考：ロシアとイスラーム世界」（小松久男）

「英雄叙事詩の伝える記憶」（坂井弘紀）

「ポーランド＝リトアニア・タタール人のイスラームの記憶」（濱本真実）

などを所収

淑瑠ラフマン『ウイグル社会とその伝統音楽』金沢大学人間社会研究域

関啓子『コーカサスと中央アジアの人間形成：発達文化の比較教育研究』明石書店（4,700円）

中国ムスリム研究会編『中国のムスリムを知るための60章』明石書店（2,000円＋税）

- 「民族自治地方のひろがりと多様性」(田中周、他)
- 「ウイグル族：新疆ウイグル自治区の主体民族」(清水由里子)
- 「カザフ族とクルグズ族：テュルク系遊牧民族」(田中周)
- 「試練に立つことば：「現代ウイグル語」の歴史と現在」(菅原純)
- 「張承志：回族作家、その人道主義とムスリム意識」(梅村坦)
- 「現代ウイグル文学における「過去の記憶」：オトクウル『足跡』が映し出す世界」(菅原純)
- 「ウイグルの音楽とおどり：多様な音楽スタイルの諸相」(鷲尾惟子)
- 「ジャマーア：ムスリムの伝統的コミュニティ」(澤井充生)
- 「変わる結婚事情：回族の婚姻慣行」(澤井充生)
- 「カシュガルの職人街：オアシス都市とその住人」(梅村坦)
- 「カシュガルの伝統住居：ウイグルの住まい」(熊谷瑞恵)
- 「新疆の遊牧民：カザフ、クルグズ、モンゴルの定住化をめぐる」(梅村坦)
- 「バザール：オアシスの市場」(真田安)
- 「清真寺とメスチト：中国のモスク」(澤井充生、新免康)
- 「年中行事：イードと預言者聖誕祭マウリド」(澤井充生)
- 「マザール：新疆の聖者墓廟」(澤田稔)
- 「中国におけるイスラームの伝播と拡大：唐代から元代のムスリム」(小沼孝博)
- 「清朝の新疆征服・統治とイスラーム聖者裔の「聖戦」：異教徒の支配のもとで」(小沼孝博)
- 「新疆ムスリム反乱とヤークーブ・ベグ政権：東の間のムスリム政権時代」(新免康)
- 「清朝とロシア帝国の狭間で：18・19世紀のカザフ」(野田仁)
- 「新疆のジャディード：「ウイグル」たちの近代的教育運動」(清水由里子)
- 「テュルクかウイグルか：近代ウイグル人のアイデンティティ」(清水由里子)
- 「新疆「イスラーム法廷文書」の「出現」：埋没した歴史へのアプローチ」(菅原純)
- 「日本の回教工作」(山崎典子)
- 「イスラームを信仰する共産党員：無神論と宗教のはざまで」(澤井充生)
- 「中国共産党とイスラーム：宗教政策の歴史的変遷」(澤井充生)
- 「人口政策とムスリム：人口大国の苦悩」(小嶋祐輔)
- 「イスラーム復興と脱宗教化：改革開放期の西北地方を中心として」(澤井充生、新免康)
- 「民族文化の「復興」と民族史の強調：ウイグル族知識人の活動」(田中周、新免康)
- 「ウイグルのナショナリズム：新疆と「和諧社会」」(小嶋祐輔)
- 「清真寺をむすぶネットワーク：移動するムスリム・エリート」(澤井充生、他)
- 「旧ソ連領中央アジアのウイグル人：新疆からの分断と交流の再開」(岡奈津子)
- などを所収(本学会会員執筆部分)

- 富樫耕介『コーカサス：戦争と平和の狭間にある地域』東洋書店（800円）
- 登利谷正人『アフガニスタン・英領インドにおけるパシュトゥーン基礎史料：アブドゥル・ガッファール・ハーンの回想録『我が人生と奮闘』』上智大学アジア文化研究所
- Bakhtiyar Babadjanov, Kawahara Yayoi, ed., *History and culture of Central Asia*, supervised by Morita Yoshikazu, Bahrom Abdukhalimov, Komatsu Hisao, Tokyo: Department of Islamic Area Studies, Center for Evolving Humanities, Graduate School of Humanities and Sociology, the University of Tokyo (非売品)
- “Islamic Court Documents as Historical Sources in Central Asia” (HORIKAWA Toru)
- “The Spread of the Kubrawiya” (YAJIMA Yoichi)
- “On Private Archives Related to the Development of the Naqshbandiya-Mujaddidiya in the Ferghana Valley” (KAWAHARA Yayoi)
- などを所収
- 北海道中央ユーラシア研究会編『中央ユーラシア研究を拓く：北海道中央ユーラシア研究会第100回記念』北海道大学スラブ研究センター
- 「北海道中央ユーラシア研究会の歩みとこれからの中央ユーラシア研究」（宇山智彦）
- などを所収
- 嶺井明子、川野辺敏編『中央アジアの教育とグローバリズム』東信堂（3,200円）
- 「中央アジア各国の教育改革の軌跡 ウズベキスタン共和国」（嶺井明子）
- 「カザフスタン共和国」（岩崎正吾）
- 「キルギス共和国」（関啓子）
- 「タジキスタン共和国」（遠藤忠）
- 「教育内容・方法 数学の授業過程からみた学びの特徴」（大谷実）
- 「「憲法教育」と国民統合の課題」（木之下健一）
- 「少数民族の母語教育保障のパラドックス」（タスタンベコワ・クアニシ）
- 「リテラシーと多言語併用をめぐる中央アジアのクロスロード」（森岡修一）
- 「高等教育における公正性確保と質保証」（松永裕二）
- 「高校生の9割が学ぶ職業カレッジ」（水谷邦子）
- 「教育戦略とグローバル・ガバナンス 世界の「多極化」と中央アジアの教育協力」（澤野由紀子）
- 「教育戦略のグローバリズム」（福田誠治）
- などを所収
- 森部豊、橋寺知子編『アジアにおける文化システムの展開と交流』関西大学出版部（3,570円）
- 「中央アジア文化における連続性について：テュルク化をめぐって」（堀川徹）

「トルクメン人の民族衣装・被衣チルピについて」(福田浩子)
などを所収

論文

- 秋山徹「混成村落の創設に見える20世紀初頭のクルグズーロシア関係」『日本中央アジア学会報』(8), 21-42頁
- アクマタリエワ・ジャクシルク「都市化の中の遊牧民: 中央アジア・キルギスの人生儀礼」『都市民俗研究』(17), 99-64頁
- アクマタリエワ・ジャクシルク「キルギス語」『語学研究所論集』(17), 212-219頁
- アハポフ・エルラン、北野慎一「カザフスタンの農村地域における砂漠化の一要因: アルマティ州ジャンブル地区の過放牧の可能性」『沙漠研究: 日本沙漠学会誌』21(4), 167-180頁
- アフタモヴァ、イローダ・「日本企業で働く在日ウズベキスタン・ムスリムから見た異文化間葛藤と異文化教育の課題についての事例的研究」『上智大学教育学論集』(46), 49-60頁
- 阿布都沙塔尔・买买提明、田中丸治哉、多田明夫「新疆ウイグル自治区における水資源開発と耕地塩類化」『水土の知: 農業農村工学会誌』80(2), 99-102頁
- アブリズ・ユスップ(石川孝之訳)「中国・新疆における生態移民の研究」『神奈川大学法学研究所研究年報』(30), 1-17頁
- 石井祥子「モンゴルのカザフ: 国家体制の変革のはざまで(第3回)イスラーム信仰の復興とカザフ・エスニシティの発現」『地理』57(1), 104-110頁
- 稲垣文昭「中央アジアの電力網改革: 南アジアへの電力供給源の可能性と各国の思惑」『国際情勢』(82), 169-182頁
- 「電力をめぐる中央アジアの国際関係: ロシア、アフガニスタンと水資源対立の相互作用」『海外事情』60(9), 61-79頁
- 今堀恵美「ウズベキスタンの刺繍業におけるキンドレッド貢献の逆説」『人文学報』(453), 63-81頁
- 今堀恵美「ウズベク・ムスリムにおける礼拝用敷物とイスラーム信仰実践」『イスラーム地域研究ジャーナル』4, 46-58頁
- 上野正弥「新疆における中国共産党の民族・宗教政策の展開(1949-55年)」『国際情勢: 紀要』(82), 77-86頁
- 宇山智彦「ロシア帝国論」ロシア史研究会編『ロシア史研究案内』彩流社、165-179頁。
- (書評)「高田和夫著『ロシア帝国論: 一九世紀ロシアの国家・民族・歴史』」『ロシ

- ア史研究』(91), 45–50 頁
- (書評)「藤本透子著『よみがえる死者儀礼：現代カザフのイスラーム復興』『人環フォーラム』(31), 57 頁。
- Уяма Томохиико. Бакытжан Каратаев и алашордынцы: изменения взаимоотношений // История Западного отделения Алаш-Орды: Сборник научных статей / Под ред. М.Н. Сдыкова. Уральск: Западно-Казахстанский центр истории и археологии, С. 290–298.
- エミール・スレイマノフ (富樫耕介訳)「序章 チェチェンと北コーカサスの反乱への理解」『ロシア・ユーラシアの経済と社会』(961), 2–12 頁
- 遠藤哲也「アフガニスタンにおける米国麻薬取締局の対麻薬活動」『海外事情』60(12), 79–93 頁
- 大森圭祐「中国新疆ウイグル自治区での遊牧民の定住化：新疆北部の定住事業の現状と今後の動向」『農業』(1556), 62–67 頁
- 大倉忠人「クルグズスタンの国政選挙からみる民主化の軌跡：2011 年のクルグズ大統領選に至る道」『法政大学大学院紀要』(69), 125–143 頁
- 大西純也「ウズベキスタンにおける農業生産と塩類集積対策」『農業』(1555), 64–67 頁
- 大原一真「カザフスタン独立 20 周年と今後の見通し」『国際金融』(1232), 76–82 頁
- 奥田幸夫、大西純也「ウズベキスタンにおける塩害農地の現状と課題」『水土の知：農業農村工学会誌』80(2), 83–86 頁
- 小沼孝博 (書評)「野田仁『露清帝国とカザフ＝ハン国』」『歴史学研究』(895), 51–54 頁
- ONUMA Takahiro, “Promotion Power : The Rise of Emin Khwaja on the Eve of the Qing Conquest of Kashgaria”『遊牧世界と農耕世界の接点：アジア史研究の新たな史料と視点』(『学習院大学東洋文化研究所調査研究報告書』(57)) , 31–60 頁
- 風戸真理「ポスト社会主義国における職業と人生選択：カザフスタンのある朝鮮人の事例より」『神戸山手大学紀要』(14), 97–107 頁
- 鹿島正裕、Qasim Wafayezada「紛争後の平和構築への国際的支援：カンボジアとアフガニスタンの事例」『人間社会環境研究』(23), 43–70 頁
- 川上高司「アフガニスタンの現状と将来：米軍の拘束作戦」『海外事情』60(3), 2–16 頁
- 川端良子「中央アジアのアラル海の縮小が漁業資源、農業、食糧生産に及ぼす影響について」『日本海水学会誌』66(2), 79–85 頁
- 川本正知「バハー・ウッディーン・ナクシュバンドの生涯とチャガタイ・ハン国の終焉」『東洋史研究』70(4), 768–738 頁
- カン・ビクトリヤ「大企業の再編成と中小企業の新規開業：ウズベキスタン移行経済の実証研究」『比較経済研究』49(1), 31–44 頁

- Kan V. 「体制転換期の中小企業育成における国家の役割：ウズベキスタンの事例研究」『ロシア・ユーラシアの経済と社会』(959), 13-40 頁
- 菊田悠「ウズベキスタン東部地方都市における聖者崇敬の現在：ムスリム陶工のピール崇敬を中心に」『文化人類学』77(3), 361-381 頁
- 木下恵二「新疆における盛世才政権の民族政策の形成と破綻」『アジア研究』58(1・2), 18-32 頁
- 居来提・熱依木、草苺仁「中国新疆ウイグル自治区における農業経済成長へ影響を及ぼす要因に関する分析」『日本農業経済学会論文集』日本農業経済学会 333-336 頁
- 久保一之「ミール・アリーシールと“ウイグルのバフシ”」『西南アジア研究』(77), 39-73 頁
- 窪田順平「中央アジア乾燥・半乾燥地域の人と自然：歴史の変遷を中心に」『日本緑化工学会誌』37(4), 455-459 頁
- 熊谷瑞恵「ナンをめぐる中国新疆ウイグル族の食事文化」『イルシー』(110), 74-84 頁
- 熊倉潤「民族自決の帝国：ソ連中央アジアの成立と展開」『國家學會雑誌』125(1・2), 41-104 頁
- 倉田亮「アゼルバイジャンの文化遺産の水環境：バクーとカスピ海」『用水と廃水』54(12), 883-893 頁
- 玄承洙「チェチェン/北コーカサスにおけるテロリズムと不安定の拡大：チェチェン抵抗イデオロギーの転換とコーカサス首長国の創設」『ロシア・ユーラシアの経済と社会』(961), 37-51 頁
- 小泉悠「グルジア戦争後4年目の南カフカス最新情勢 プーチンを苛立たせる！グルジア再びアメリカに接近、NATO加盟を諦めず」『軍事研究』47(12), 104-117 頁
- 河野明日香「現代中央アジアの教育における茶と国民形成」『TASC monthly』(433), 6-11 頁
- 庫尔班・阿迪拉、榎本弘行「新疆ウイグル自治区における地方立法：その法的枠組、沿革及び若干の考察」『共生社会システム研究』6(1), 197-224 頁
- 小松久男「中央ユーラシア研究の新地平：イスラーム地域研究部門の活動によせて」『文化交流研究：東京大学文学部次世代人文学開発センター研究紀要』(25), 1-9 頁
- 小松久男「『ユーラシア世界』へのいざない(2) シベリアからアナトリアへ：ある汎イスラーム主義者の復権」『UP』41(7), 20-26 頁
- 金野雄五「ロシア・ベラルーシ・カザフスタン関税同盟の現状と展望：統合の現段階と「共通経済空間」が目指すもの」『ロシアNIS調査月報』57(4), 1-8 頁
- 斎尾恭子「シルクロードの中継点、ウズベキスタンのパンと麺」『愛国学園短期大学紀要』(29), 83-93 頁
- 坂井弘紀「カザフの神話的昔話「エル・トスティク」」『千葉大学ユーラシア言語文化論集』

- (14), 233–262 頁
- 坂口泉「タタルスタン共和国の石油および化学産業」『ロシア NIS 調査月報』57(8), 18–31 頁
- 佐々木紳「オスマン帝国と中央アジア：アリ・スアーヴィーのまなざしから」『海外事情』60(9), 49–60 頁
- サトパエフ D. 「カザフスタン政権人事異動に関する背景分析」『ロシア NIS 経済速報』(1575), 1–8 頁
- 澤田稔「『タズキラ・イ・ホージャガン』の諸写本にみえる相違：書名と系譜について」『西南アジア研究』(76), 72–85 頁。
- 塩谷昌史「19 世紀前半におけるロシアの綿織物輸出とアジア商人の商業ネットワーク」『歴史と経済』54(2), 32–47 頁
- 朱永浩、三村光弘「会議・視察報告 中国・カザフスタン国境地域に行く：アルマトイ、ホルゴス、アラシャンコウ視察報告」『Erina report』106, 67–71 頁
- ジュマトゥルディ・アディル「翻訳 現代のホメロスに訊く：中国キルギス族の語り手ジュスプ・ママイ訪問談」『名古屋学院大学論集 言語・文化篇』23(2), 63–76 頁
- 白鳥智裕「疾走する中央アジア・カザフスタン」『石油・天然ガスレビュー』46(6), 85–97 頁
- シンジルト「伸縮する遠近：モンゴル＝キルギス人の現在」風間計博、中野麻衣子、山口裕子、吉田匡興編『共在の論理と倫理：家族・民・まなざしの人類学』はる書房, 247–270 頁
- Shinmen Yasushi, Onuma Takahiro, “First Contact between Ya‘qūb Beg and the Qing: The Diplomatic Correspondence of 1871,” *Journal of Asian and African Studies* (84), pp. 5–37.
- 菅原純「国際ワークショップ『新疆問題』を越えて」『イスラム世界』(78), 35–45 頁
- 菅原睦「トルコ語」『語学研究所論集』(17), 200–211 頁
- 鈴木均「米軍撤退始まるもアフガン国民の前途は多難」『アジア動向年報』574–590 頁
- 石其琳「中国新疆北部地区現代化における諸問題についての一考察」『筑紫女学園大学・筑紫女学園大学短期大学部紀要』7, 141–153 頁
- 相馬拓也「アルタイ＝カザフ牧畜社会における騎馬鷹狩(きばたかがりりょう)：イヌワシと鷹匠(ブルクツッチュ)の夏季生活誌についての基礎調査」『ヒトと動物の関係学会誌』(32), 38–47 頁
- 高橋巖根「独立後の中央アジア」『流通経済大学論集』46(4), 215–226 頁
- 竹原美佳「講演録 ガスを通じ、中央アジアとの紐帯を進める中国：中国の中央アジア資源戦略」『中国研究月報』66(2), 28–41 頁
- 田畑久夫「ロシア人による中央アジア探検：セミョーノフ(Семёнов, П.П.)の場合」『民俗と歴史』(30), 1–26 頁

- 地田徹朗「ユーラシアにおける開発と環境：「自然改造」の歴史と現在」『Seeder：種まく人：地球環境情報から考える地球の未来』(6), 6-12 頁
- 峠嘉哉、田中賢治、小尻利治、浜口俊雄「中央アジア域の灌漑地拡大の影響を考慮した陸面解析によるアラル海縮小の再現」『京都大学防災研究所年報・B』55(B), 571-577 頁
- 富樫耕介「チェチェン共和国における政治的争点としての「イスラーム」の出現過程 (1997-99)」『ロシア・ユーラシアの経済と社会』(961), 26-36 頁
- 富田寿代・水谷令子「カザフスタン南東部の水」『鈴鹿国際大学紀要 Campana』18, 65-73 頁
- 中島隆晴「トルクメニスタン：ニヤゾフ外交：ニヤゾフ時代のウズベキスタンとの関係を例に」『海外事情研究所報告』(46), 111-118 頁
- 「近年のアフガニスタンをめぐる米・露・中・中央アジア情勢」『海外事情』60(3), 61-70 頁
- 中村正士、坂下明彦「タジキスタン農業の再編と農民組織の役割」『農経論叢』67, 47-61 頁
- 中村朋美「19世紀前半コーカンド・ハーン国の遣露使節とロシア帝国の中央アジア政策」『アジア史学論集』(5), 1-18 頁
- 西川有司「資源と法 (4) 小国は資源を守れるのか：コーカサスのサバイバル」『時の法令』(1911), 57-62 頁
- 西原明史「裁きから赦(ゆる)しへ：ウイグル族の語りを「症候」として読む」『安田女子大学紀要』(40), 113-126 頁
- 西脇隆夫「ウイグル昔話「英雄チン・トゥムール」再論」『名古屋学院大学論集 人文・自然科学篇』48(2), 41-52 頁
- 沼田彩誉子“Fieldwork Note on Tatar Migrants from the Far East to the USA : For Reviews of Islam Policy in Prewar and Wartime Japan,”『日本中東学会年報』(28), 127-144 頁
- 野田仁(書評)「森永貴子『イルクーツク商人とキャフタ貿易：帝政ロシアにおけるユーラシア商業』」『歴史学研究』(889), 55-57, 61 頁
- 長谷川晋「平和構築における非国家主体と規範：イラク・アフガニスタンの治安部門改革における米国の民間安全保障会社を例に」『国際協力研究誌』18(3), 53-63 頁
- 花岡伸也、川崎智也「中央アジアを対象とした内陸国貨物輸送における港湾アクセス」『日本物流学会誌』(20), 229-235 頁
- 林裕「アフガニスタン農村における現状と意思決定構造」『東洋研究』(185), 103-120 頁
- 平林今日子、佐藤健一、大瀧慈他「セミパラチンスク地区住民の核実験に起因する認識構造」『長崎医学会雑誌』87(特集号), 280-285 頁
- 廣瀬陽子「グルジア紛争後のグルジアとアゼルバイジャン：未承認国家政策の変化を中心に」『国際情勢：紀要』(82), 157-167 頁

- 関丙勳「講演 韓国における中央アジア学研究的現況：学際的研究とその事例の紹介」『史滴』(34), 274-277 頁
- 夫馬基彦「逆接のウズベキスタン」『季刊文科』(55), 26-41 頁
- 古澤文「新疆ウイグル自治区における施設栽培の展開とその分布特徴」『人間文化研究科年報』27, 217-226 頁
- 細谷良夫「新疆ウイグル自治区に残る清代城堡の探訪」『アジア流域文化研究』(8), 41-70 頁
- 前川恵「アゼルバイジャンのエネルギー戦略：近年の石油・天然ガス分野の動向と今後の展望」『外務省調査月報』2012 年度(2), 27-55 頁
- 丸山鋼二「新疆トルファン地方のイスラム化と仏教衰退：中国新疆イスラム教小史(5)」『文教大学国際学部紀要』23(1), 85-100 頁
- 「新疆クチャ地方のイスラム化と仏教文化破壊：中国新疆イスラム教小史(4)」『文教大学国際学部紀要』22(2), 121-141 頁
- 水谷尚子「『革命的東トルキスタン』紙のタタール人記者ムニール・イブラギモヴィチ・イェルズィン回想録」『社会システム研究』24, 181-222 頁
- 「キルギス共和国のウイグル人」『麗沢大学紀要』94, 177-218 頁
- メルトハン・デュンダル「私は夢も日本語で見ていた：トルコ・タタール移民の活動」塩川 伸明、小松久男、沼野充義編『ユーラシア世界2：ディアスポラ論』東京大学出版会, pp. 205-228 頁
- 森岡修一「中央アジアにおける教育と発展：ウズベキスタンの社会変動に関するケース・スタディーを中心に」『コミュニケーション文化論集』(10), 41-63 頁
- モハンティ・アルン(本村 眞澄 編)「インドから見たロシア・中央アジアのエネルギー戦略」『石油・天然ガスレビュー』46(3), 7-15 頁
- 梁井新一「アフガニスタンは何処へ行く？米国はパキスタンの懸念を直視せよ」『パーキスターン』(241), 11-29 頁
- 山本賢二「中国における共通語普及政策と少数民族語：新疆ウイグル自治区を例にして」『桜文論叢』82, 83-113 頁
- 吉田一康「カザフスタンの国際商事仲裁について」『JCA ジャーナル』59(5), 2-7 頁
- 吉田世津子「家屋を建てる：旧ソ連領中央アジア・北部クルグズ農村における世帯形成とキョウダイ」風間計博、中野麻衣子、山口裕子、吉田匡興編『共在の論理と倫理：家族・民・まなごしの人類学』はる書房, 73-95 頁
- 李彦及「中国の高校における新疆クラスの生徒募集に関する考察」『広島大学大学院教育学研究科紀要 第三部 教育人間科学関連領域』61, 129-135 頁
- リナット シガブディノフ(高橋 巖根 訳・解説)「翻訳 中央アジアのタタール人：第1章 中

- 央アジアのタタール人の活動」『流通経済大学社会学部論叢』22(2), 193–205 頁
- 劉智彪、吳琮「新疆英吉沙小刀傳統工藝概説」*Bulletin of Asian Design Culture Society* :
International Symposium of Asian Design Culture Society 6, 179–184 頁
- 渡辺紫乃「中国の中央アジア外交：安全保障、資源エネルギー、経済面での協力と今後の課題」
『海外事情』60(9), 32–48 頁
- 和田賢治「アフガニスタンの農村女性に対するカナダの自立支援プログラム：統治技術としてのエンパワーメント」『カナダ研究年報』(32), 19–34 頁
- Wafayezada M. Qasim 「アフガニスタンにおけるエスニック政治，エスニック政党と民主的
平和建設の将来」『人間社会環境研究』(24), 65–91 頁